人間関係講座（グループ）第109回［秋］

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	大塚　弥生（南山大学教職センター准教授） 池田　満（南山大学人文学科心理人間学部准教授）
概要	この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの中での人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。１つの講座は２日間のプログラムで構成しています。 私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しい」ということをよく聞きます。その理由の１つとして、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合に、話や課題の内容（コンテント）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることが考えられます。 この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。 ①グループの中で他者と関わる自分の特徴に気づく ②「コンテント」と「プロセス」とは何かを理解する ③グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向ける重要性に気づく この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）と、グループに関する理論の小講義によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたい方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。
日程	2018年11月17日（土） 10：00～18：00 11月18日（日）　9：00～17：00　土日集中
定員	36名
会場	南山大学　D棟　D51教室
受講料	11,200円（税込）
メルマガ 講座報告	担当講師　池田　満　記 2018年11月17日（土）、18日（日）の二日間にわたり、26名の受講生のみなさんとともに、「第109回人間関係講座（グループ）秋」を開催いたしました。 今回の講座では、新たな試みが2つありました。ひとつは、「人間関係講座（グループ）」で過去数年にわたって行われていた「ブロックモデル」という実習を少し変え、「ペーパーモデル」にしたことです。ブロックモデルでは、青、ピンク、緑の透明プラスチック製の丸や四角の“ブロック”を使用していましたが、今回は色の数も形も増えた、厚紙製の材料を使って、実習を行いました。ただ道具を変えただけ．．．と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、道具も変われば見え方も変わり、そこで起こるプロセスも変わる．．．初めての実習に担当者もドキドキしていました。 二つめの試みは、カード型の問題解決実習を二つ、連続で実施したことです。体験学習のEIAHE’のサイクルはE’、すなわち仮説化した考えや行動を体験の中で試みることで、本当のサイクル（循環）になります。同じような実習を繰り返す中で、「新たな体験の中で試みやすい場面」を設定してみました。 上にも書きましたが、初めての試みというのは、「さぁどうなるか．．．」と担当者も緊張しながら見ています。実習に取り組まれた皆さんはどう感じられたでしょうか？